

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【和土小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt;国語の「文中の主語と述語の関係を理解すること」に課題がある。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;児童が反復・習熟に取り組み時間や自らの学びを振り返る時間の設定が不十分である。</p>	<p>⇒ 教科横断的な視点で、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりさせることを繰り返し取り組むことで定着を図る。【毎時間設定】</p> <p>⇒ 授業の導入で既習事項を振り返る時間を設定したり、授業のまとめで自らの学びを振り返る時間を設定したりして、学びに生かせるようにする。【毎時間設定】</p>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt;国語では集めた情報の関連付け、算数では数量関係と資料の関連付けについて課題がある。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;資料の見方に対する指導や根拠をもとに自己の考えをまとめる活動時間の確保が不十分である。</p>	<p>⇒ 授業で資料を用いた際に見る視点や単位の着目など意図的な発問をすることにより、資料の見方を高める。【単元毎設定】</p> <p>⇒ タブレット等を活用した「協働的な学び」を通して、考えたり自分の考えの根拠を表現したりする時間を確保する。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】</p>

全国学力・学習状況調査  
<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。その中で、「文中における主語・述語の関係を捉えること」の問題で誤答が多い。解答類型をみてみると述語のすぐ上にある単語を主語と捉えている児童が多く、主語に対する理解が不十分であると考えられる。また、「話し言葉と書き言葉の違いに気付くこと」や「漢字を文中で正しく使うこと」の問題に課題がみられた。	
思考・判断・表現	算数では特に「変化と関係」「図形」や「データの活用」の領域において課題が見られた。解答類型をみてみると答えはわかっているが、「なぜその答えになるのか」という説明を書くことができない児童が多い。このことから、児童が式や答えの求め方を複数考えさせたり答えの理由を自分の言葉で説明させたりする活動を重視していく。また、児童質問の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は91.6%であった。このことから、今後も協働的な学びの機会を確保して主体的・対話的で深い学びにつなげる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)  
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	<p>・主語と述語を意識して文を読んだり書いたりする活動を取り入れ、文章を読む力を養っていく。</p> <p>・授業の導入で既習事項の振り返りやまとめで自らの学びの振り返りを丁寧かつ確実にやっていく。また、習熟の時間の確保に努め、知識・技能の定着を一層推進していく。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>・授業で資料を用いた際に見る視点や単位の着目などについて意図的に発問をする指導をより丁寧に行っていく。また、自分の考えをもたせることや理由を考えさせることも繰り返し指導していく。</p> <p>・R6年度全国学力・学習状況調査で、「協働的な学び」について児童の肯定的な回答が90%以上だった。今後も「CTを活用しての共同編集や児童の実態に応じた効果的な「協働的な学び」の探求に取り組んでいく。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)